

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成26年11月19日

計画の名称	11 横浜都心部の活性化																																	
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）					交付対象	横浜市																											
計画の目標	<p>個性的で魅力ある地域資源を活用し、国内外の多くの人や企業から選ばれる都心部を形成し、活性化を図る。 横浜駅周辺や関内・関外地区、みなとみらい21地区の整備促進により、3つのエリアの一体化が進み、首都圏有数のエリアとして活性化を図る。</p>																																	
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数を 1,773万人/年から1,850万人/年に増加 駅乗降客数を 282万人/日から300万人/日に増加 事業所統計調査従業者数 285,923人から299,000人に増加 																																	
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H23当初)</th> <th>中間目標値 (H25末)</th> <th>最終目標値 (H27末)</th> </tr> <tr> <td>本市が毎年作成している「横浜市観光客数調査」における、みなとみらい・桜木町、山下・関内・伊勢佐木町、山手・本牧・根岸の観光入込客数</td> <td>1,773万人/年</td> <td>-</td> <td>1,850万人/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい21地区における駅乗降客数（横浜駅、桜木町駅、関内駅、石川町駅、新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅、日本大通り駅、元町・中華街、高島町駅、伊勢佐木長者町駅、阪東橋駅、戸部駅、日ノ出町駅、黄金町駅）</td> <td>282万人/日</td> <td>-</td> <td>300万人/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業所統計調査における横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい地区の従業者数</td> <td>285,923人</td> <td>-</td> <td>299,000人</td> <td></td> </tr> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	本市が毎年作成している「横浜市観光客数調査」における、みなとみらい・桜木町、山下・関内・伊勢佐木町、山手・本牧・根岸の観光入込客数	1,773万人/年	-	1,850万人/年		横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい21地区における駅乗降客数（横浜駅、桜木町駅、関内駅、石川町駅、新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅、日本大通り駅、元町・中華街、高島町駅、伊勢佐木長者町駅、阪東橋駅、戸部駅、日ノ出町駅、黄金町駅）	282万人/日	-	300万人/日		事業所統計調査における横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい地区の従業者数	285,923人	-	299,000人	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																														
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)																															
本市が毎年作成している「横浜市観光客数調査」における、みなとみらい・桜木町、山下・関内・伊勢佐木町、山手・本牧・根岸の観光入込客数	1,773万人/年	-	1,850万人/年																															
横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい21地区における駅乗降客数（横浜駅、桜木町駅、関内駅、石川町駅、新高島駅、みなとみらい駅、馬車道駅、日本大通り駅、元町・中華街、高島町駅、伊勢佐木長者町駅、阪東橋駅、戸部駅、日ノ出町駅、黄金町駅）	282万人/日	-	300万人/日																															
事業所統計調査における横浜駅周辺、関内・関外地区、みなとみらい地区の従業者数	285,923人	-	299,000人																															
全体事業費	合計 (A+B+C)	4,272百万円	A	3,382百万円（うち提案事業分 117百万円）	B	551百万円	C	339百万円	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C)/(A+B+C)	10.2%																								

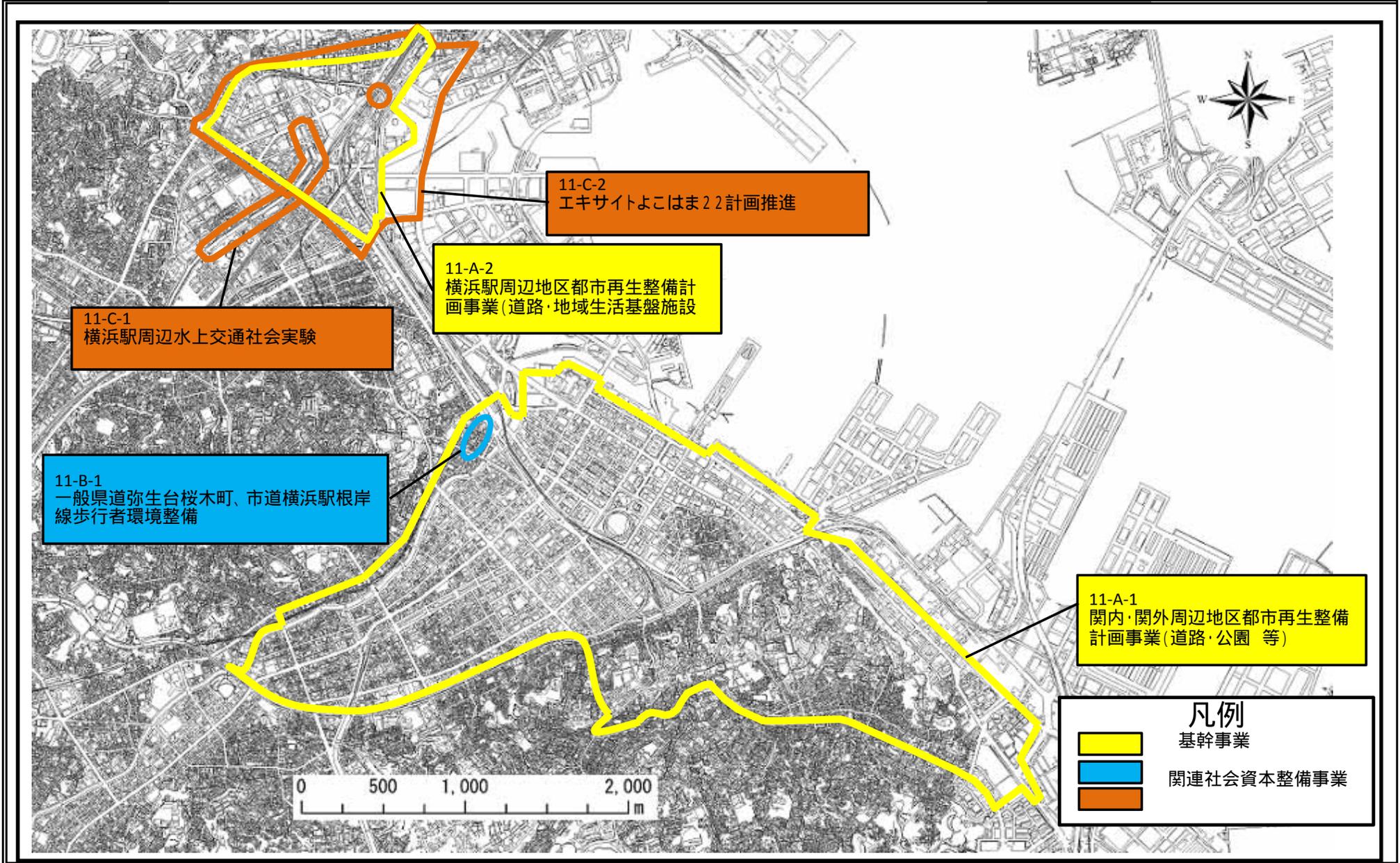
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
11-A-1	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	関内・関外周辺地区都市再生整備計画事業	道路、公園等 600ha	横浜市						1,887	別添1
11-A-2	都市再生	一般	横浜市	直接	横浜市	横浜駅周辺地区(第2期)都市再生整備計画事業	道路、地域生活基盤施設等 90ha	横浜市						1,495	別添2
合計													3,382		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
11-B-1	道路	一般	横浜市	直接	横浜市	一般県道弥生台桜木町、市道横浜駅根岸線歩行者環境整備	歩道整備 770m	横浜市						551	
合計													551		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
11-B-1	歩道整備により便利で快適な歩行者空間を形成し、回遊性の強化を図る。														
11-B-2	道路整備により交通機能の円滑化を図り、都心部の活性化を推進する。														
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
11-C-1	社会実験	一般	横浜市	直接	横浜市	横浜駅周辺水上交通社会実験	水上交通社会実験	横浜市						9	
11-C-2	計画・調査	一般	横浜市	直接	横浜市	エキサイトよこはま22計画推進	計画策定	横浜市						330	
合計													339		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
11-C-1	横浜駅周辺地区(A-2)における水上交通の社会実験を実施し、移動利便性の向上を図る。														
11-C-2	横浜都心部(横浜駅周辺、関内・関外、みなとみらい21)全体を視野に入れながら、横浜駅周辺地区(A-2)におけるまちの将来像を見据えた計画を推進する。														

その他関連する事業														
事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
								H23	H24	H25	H26	H27		
A	一般	横浜市	直接	横浜市	関内・関外周辺地区都市再生整備計画事業	道路、公園等 600ha	横浜市						473	別添1

A	473	百万円	B	551	百万円	C	339	百万円	((A提案分 + (C+C')) / ((A+A') + (B+B') + (C+C'))	9.6%
---	-----	-----	---	-----	-----	---	-----	-----	---	------

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	11 横浜都心部の活性化	交付対象	横浜市
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度 (5年間)		



都市再生整備計画(第10回変更)

かなない かんがいしゅうへん
関内・関外周辺地区

かながわ よこはまし
神奈川県 横浜市

平成25年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	関内・関外周辺地区	面積	600 ha
計画期間	平成 21 年度	～	平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度	～	平成 25 年度

目標

新市庁舎整備を核として、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興などにより、にぎわいの創出や回遊性の向上を図り、関内・関外周辺地区の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

関内・関外周辺地区は、開港以来横浜の中心地として発展を担ってきた地区であり、県庁、市役所などの官公庁施設、企業の本社、支社が立地する都心地区、そして、全国的に知名度の高い元町や中華街、馬車道などの商業地区が形成されています。同時に、歴史的建造物が点在するなど歴史・文化を生かした魅力ある景観が形成されている観光地区でもあります。しかしながら、近年、横浜駅周辺やみなとみらい21地区における整備の促進により、企業の地区外への移転が増加するなど地区のにぎわいが低下しつつあります。さらに、本市では新市庁舎整備を検討しており、今後の関内・関外地区の街づくりは新市庁舎整備と一体的にすすめていく必要があります。平成20年作成の「横浜都心部ランドデザイン」にて示した関内・関外地区の目指すべき方向、ならびに豊富な観光資源、横浜を象徴する景観をもつ山手地区の維持・発展に向け、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興、にぎわいの創出や回遊性の向上による活性化を促進することが求められています。

○参考：第1期事後評価「今後のまちづくりの方策」

だれもが移動しやすい歩行者環境とネットワークの構築を図るため、歩行者空間のバリアフリー化や自転車と歩行者の分離に対する取組が必要である。また地区内の重要な観光資源である歴史的な建造物、港、公園を活用するための取組として、観光客に対する利便性や快適性の向上のための案内サインの更なる充実や、沿道環境の改善と合わせ、観光資源を維持していくための取組として歴史的建造物の保存活動への助成なども検討していく。更に点在する観光資源相互の連携に対する取組も必要である。また、文化芸術活動により都市機能の多様化を図り、都心部の活性化を実現させる取組として、活動拠点整備のための建物改修やバリアフリー対策等に対する助成事業についても検討していく。

課題

- ・業務や商業における事務所数・従業者数の減少
- ・関内駅を中心とした一体感のある駅前空間が未整備
- ・歩きやすい歩行者環境整備が不十分
- ・初黄地区における元違法風俗店舗の存在
- ・老朽化したビルが多く存在

将来ビジョン(中長期)

○関内地区は、横浜開港の歴史と都心の最初の核として今後も発展していくことを目指す。
特に、「行政機能」、「教員、文化、芸術、スポーツ」、「特色ある専門店」、「歴史的建造物や街並み散策などの観光」の機能を向上させる。
○関外地区は、多様性、大衆性のある横浜独自の生活文化を育んできた地区として、文化、業務の伝統を受け継ぎつつ、魅力的なまちを目指す。
特に、「特色ある専門店」、「地域密着型商店」、「都市型住宅」の機能を向上させる。
○山手地区は、開港以来の歴史的建造物など、景観資源も多く、横浜を代表する観光地区となっている。老朽化・機能低下した都市基盤施設を再整備しつつ、横浜らしい都市景観の維持・発展を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅乗降者数	人/日	JR(関内、桜木町、石川町)、みなとみらい線(元町中華街、日本大通り、馬車道)、市営地下鉄(板東橋、伊勢佐木長者町、関内、桜木町)の1日平均乗車人員数の合計	都市基盤の整備や観光振興、にぎわいの創出により来街客数が増加する。	458千人/日	H19年度	480千人/日	H25年度
山手の公開西洋館の入館者数	人/年	山手地区の洋館(ブラフ11番館、外交官の家、テニス発祥記念館、ペーリックホール、エリスマン邸、山手234番館、イギリス館、山手111番館)の年間来館者数の合計	山手本通り改修による、山手地区公開洋館の利用者数が増加する	726,864人/年	H19年度	750,000人/年	H25年度
初黄地区小規模営業店舗再利用件	件数	小規模営業店舗の再利用転換数	地元、県警、行政の環境浄化の取組により、大半が現在閉鎖している初黄地区の旧違法小規模店舗の土地・建物の再利用をすすめ、新たなにぎわいを創出する。	73件	H19年度	100件	H25年度

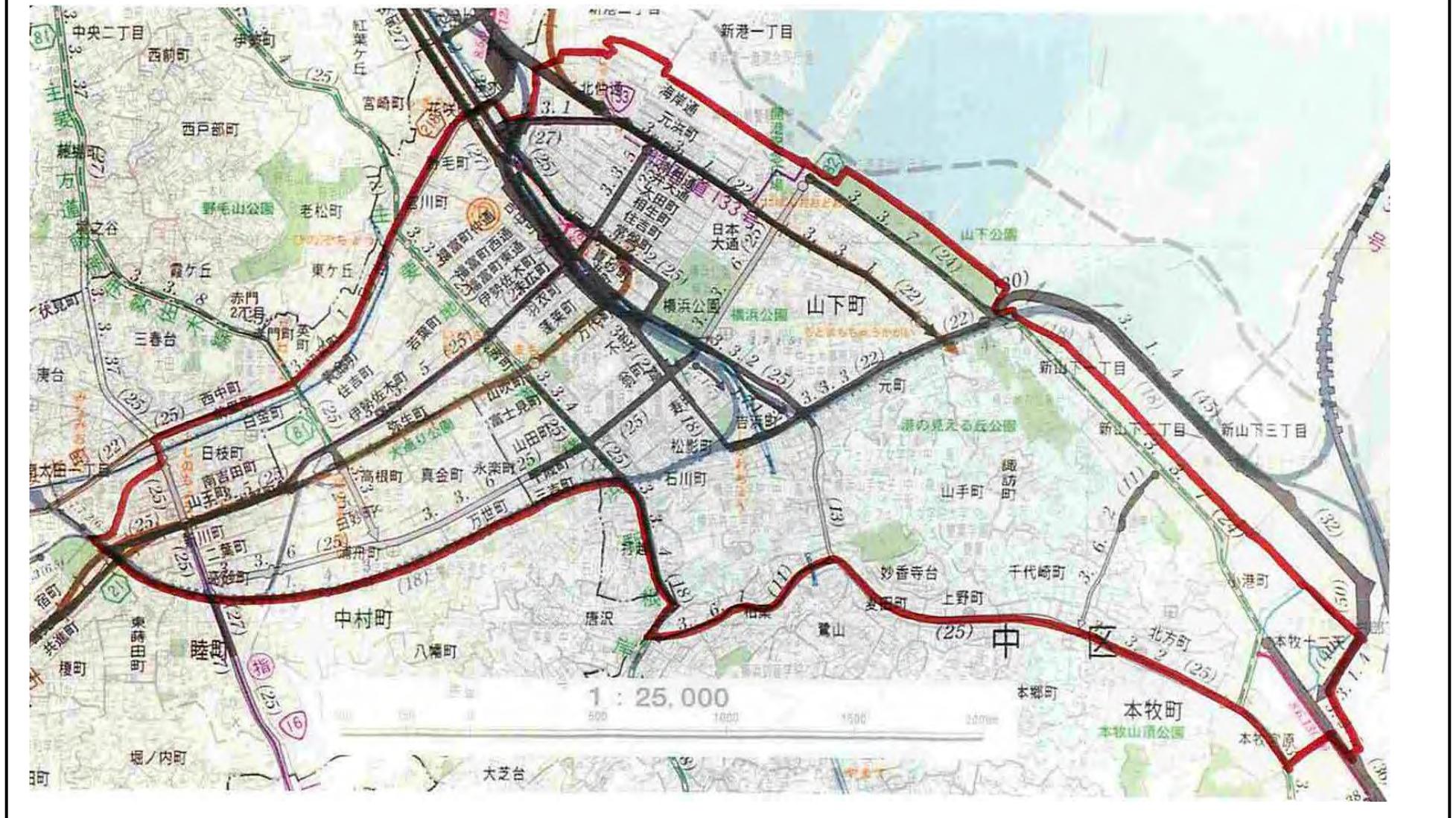
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・人にやさしい歩行者空間整備 ・回遊性を高める歩行者ネットワーク整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道山手元町線電線共同溝整備(道路) ・山手通り歩道整備(高質空間形成) ・関内駅北口駅前(マリナード地下街) ・市道万国橋通第7006号
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源を生かした景観形成、観光振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストロングビル外観復元工事(地域創造支援) ・カトリック横浜司教館別館外観改修(地域創造支援) ・綜通横浜ビル
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化・機能低下した都市基盤施設の再整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜公園 ・本牧十二天緑地 ・大通り公園 ・港の見える丘公園(拡張)
<p>その他</p>	
<p>・違法風俗店の閉鎖による環境浄化、まちの再生を目指す「初黄・日ノ出町地区」において、京急高架下の利用、小規模店舗の転用・再生に向けた活用調査を実施する。 調査結果にもとに、新たな利用促進・活用を図り、同地区の新たなにぎわいを創出する。</p>	

都市再生整備計画の区域

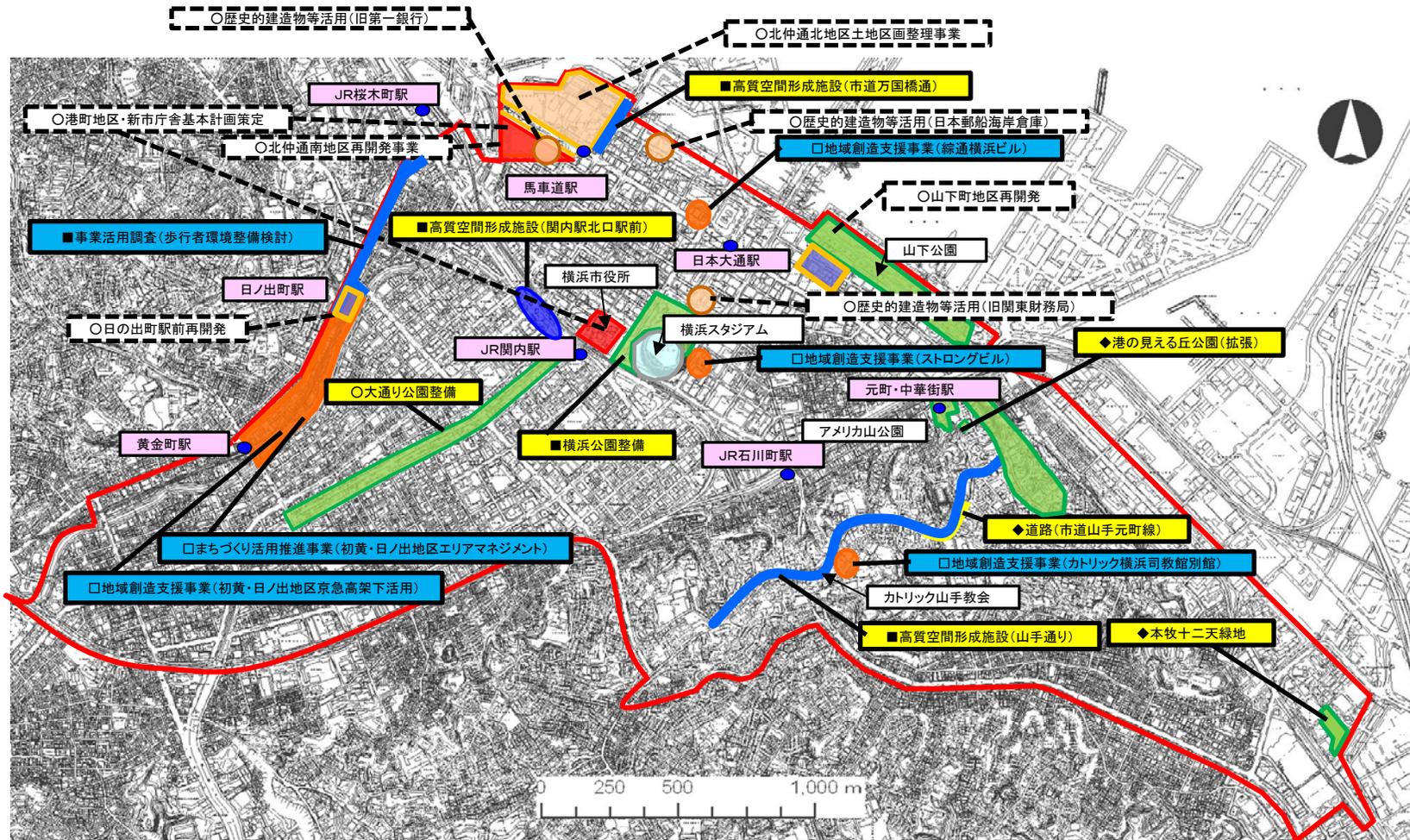
関内・関外周辺地区(神奈川県横浜市)	面積	600 ha	区域	中区、南区の一部
--------------------	----	--------	----	----------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



関内・関外周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	新市庁舎整備を核として、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興などにより、にぎわいの創出や回遊性の向上を図り、関内・関外の活性化を促進する。	代表的な指標	駅乗車人員 (人/日)	458千人/日 (H19年度) → 480千人/日 (H25年度)
			山手の公開西洋館の入館者数 (人/年)	726,864人/年 (H19年度) → 750,000人/年 (H25年度)
			初黄地区小規模営業店舗再利 (件数)	73件 (H19年度) → 100件 (H25年度)



凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

都市再生整備計画(第4回変更)

よこはまえきしゅうへん
横浜駅周辺地区(第2期)

神奈川県 よこはま横浜市

平成26年11月

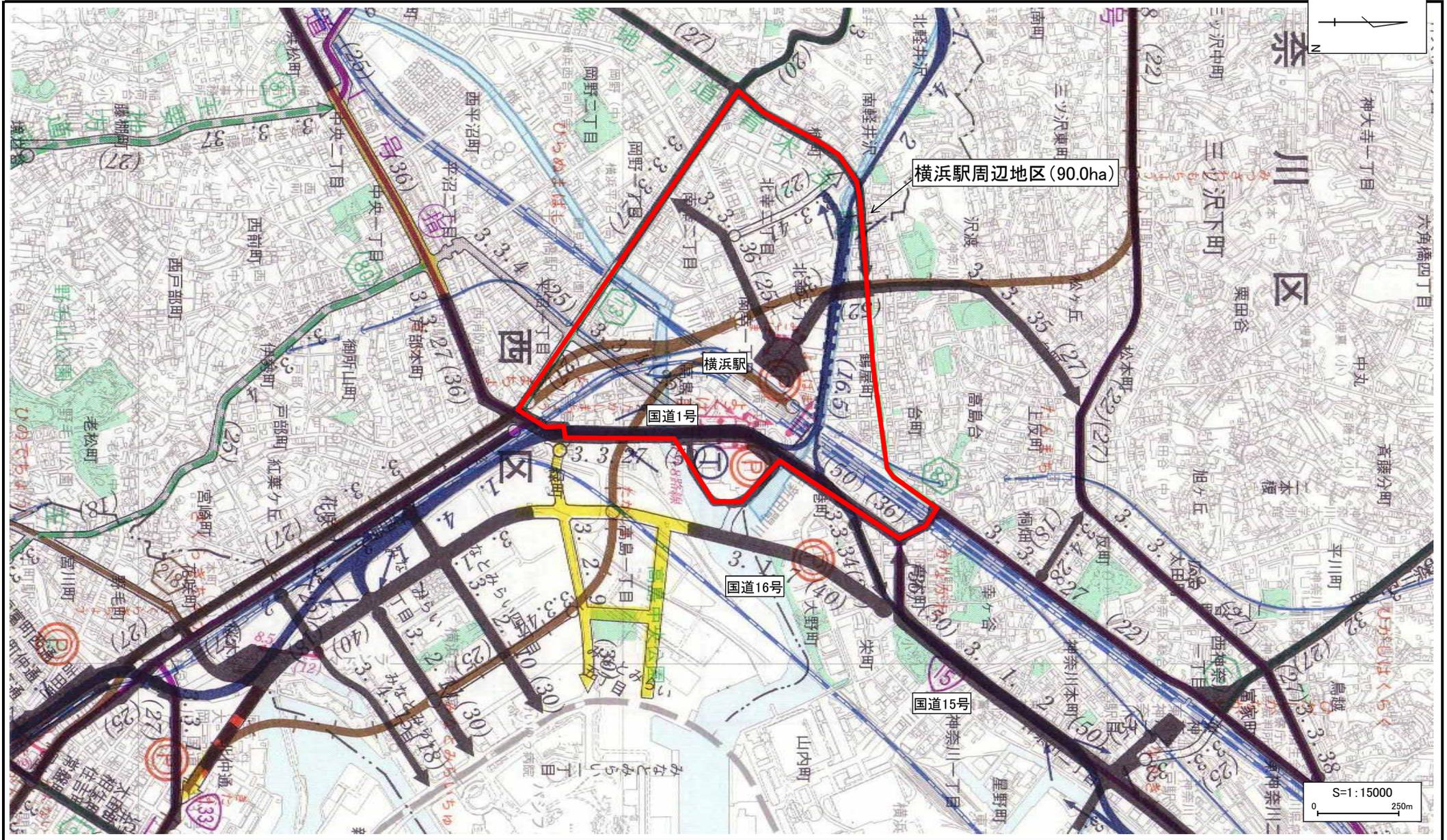
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・洪水時に河川から溢水することのないよう、河川の治水安全度の向上を図る。</p> <p>・鶴屋橋は1日に約5万人以上の歩行者が通行しており、常に混雑している状況。</p> <p>・将来は、約8万人が通行する予定で、現況の歩道幅員5mでは不足する。</p> <p>・鶴屋橋の周辺は上空の首都高速道路のために魅力ある空間整備ができていない。</p> <p>・地元からは、鶴屋橋の架け替えや周辺の魅力ある空間整備について強い要望があげられている。</p> <p>・鶴屋橋は、竣工が昭和30年であり老朽化が進んでいる。</p> <p>・過去に地元調整や施工の困難性から頓挫した経緯がある。</p> <p>・エキサイトよこはま22において、即座に解決すべき重要課題の一つに位置付けられている。</p> <p>【対応策】</p> <p>・地元の理解を得るために、架け替えだけでなく、魅力的なまちづくりの計画を提案する。</p> <p>・鶴屋橋を架け替えて、河川上の橋脚を撤去すること。</p> <p>・また、架け替えの際、歩道幅員を拡幅するとともに、橋梁のデザインや首都高桁下に照明を導入するなど工夫して、魅力ある空間を創出する。</p> <p>・幸川の河積阻害の要因となる内海橋の桁を、計画高水位(T.P.2.3m)以上にかさ上げする。</p>	<p>・鶴屋橋架替え</p>
<p>・駅を中心に東西を一体的かつ円滑に移動・回遊できる歩行者ネットワークの整備を行うため、駅直近部における地上、地下レベルで構成される立体的な歩行者ネットワークを構築する。</p>	<p>・横浜駅西口地下街回遊空間形成事業【(参考)関連事業】</p> <p>・横浜駅西口駅前広場改修整備事業【(参考)関連事業】</p>
<p>・慢性的な渋滞が生じる交差点の渋滞長を縮減させる。</p>	<p>・岡野交差点改良</p>
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

横浜駅周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市)

面積	90.0 ha	区域	横浜市西区、神奈川区
----	---------	----	------------



横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	<ul style="list-style-type: none"> 横浜駅周辺にふさわしい治水安全度を確保する。 駅を中心に東西を一体的かつ円滑に移動・回遊できる歩行者ネットワークの整備を行う。 歩きやすく、わかりやすい歩行者空間の創出を図る。 平成21年に取りまとめた計画「エキサイトよこはま22」の実現に向けて、更なる具体化を行う 	代表的な指標	横浜駅周辺地区の治水安全度の向上 (河川流量)	260m ³ /s	(22年度)	→	350m ³ /s	(27年度)
			交差点の渋滞長の減少 (延長)	200m	(24年度)	→	150m	(27年度)

